

官製談合の業者を指名停止しなかったのは、何らかの意思が働いたのではないかと



深田 真史 議員
(自由民主党・無所属の会)



問 他の自治体で官製談合事件を起こしたP社を加西市は指定停止基準に従って、指名停止にしないまま、道の駅の基本計画と児童館の基本構想の公募型プロポーザルに参加し、加西市と契約した。西村市長の過去の議会発言から道の駅に相当な思いがあったことがよく分かる。

- 令和3年9月…「道の駅可能性調査に12団体」
- 令和3年12月…「全国一流どころのコンサルがしっかり手を挙げていたいて道の駅構想を今策定している」
- 令和4年6月…「次の構想を策定するに当たっても、本当に全国でこんなと

ころが来てくれるのかというところも手を挙げてくれたわけですよ」

市長が業者のことをわざわざ述べることはしないものだ。令和4年6月の発言は、問題のプロポーザルが始まってからの発言。結局、指名停止しなかったのは意中の業者だったのか。

答 (市長) そんなことは全くありません。道の駅という困難施設に、全国の業者が関心を寄せているとお伝えしたかっただけです。特定の業者と面会していないし、関係ありません。

問 令和2年10月西村市長は、P社が基本計画を手がけた京丹波町(京都府)の道の駅「味夢の里」をイメージしている、と自ら具体名を挙げた。また、自ら「味夢の里」を見に行ったとも発言した。そこを手がけた業者とい

う意思が働いた、市長がごり押ししたと取られても仕方ない。

答 (市長) よくそういう思考が働くなとびっくりです。全くそんな意図はありません。私は「soraかさい」だけでは加西市の活性化に弱く、道の駅をつくらなければならないと早くから言っています。荒唐無稽だ。

問 しかし、市長が見に行き、発言までしている。

答 (市長) 私的に「味夢の里」に行ったが、特定の業者にやってもらう思いは他の事業についても一切ありません。



市民生活における安全安心について (防犯カメラ・ごみ袋の問題)



丸岡 弘満 議員
(自由民主党・無所属の会)



問 動く防犯カメラとしてドライブレコーダーのメリットを述べ、急ぎ全ての市公用車へ取り付けるべきと意見してきた。新車購入の際に順次搭載していくとの答弁であったが、今の状況は。

答 ご指摘から必要性を改めて認識したこともあり、令和3年度末にほぼ全ての公用車へ取付けを完了しました。

問 市民からごみターミナルや不法投棄の予防策としてカメラ設置の要望がある。不法投棄監視カメラ5台で足りるのか。台数を増やし「不法投棄をしない。

させない。」という市の覚悟と地域の姿勢を示す啓発活動として予算対応していくことが重要では。

答 ごみの分別マナーや不法投棄の抑止効果のためカメラを設置していますが、要望が増加しており、令和5年度はカメラを増やすよう予算要求しています。

問 市指定のごみ袋が取扱店の店頭にないと苦情がある。市民が安心してごみを出せないということがあってはならない。なぜごみ袋が購入できないのか。

答 新型コロナウイルス感染拡大の影響で製造元の工場がフル稼働できてないことに加え、輸入原材料が安定的に入荷しにくいことも影響しています。取扱店において若干の納入遅延が発生していましたが、大中小いずれのごみ袋もなくなることはありませんでした。

問 ごみ袋を買いに行ったらないという実態がある！なくなるということはありませんでしたという答弁は理解できない。在庫管理はできているのか。今後の対応は。

答 ごみ袋の安定供給を図るため、別の工場で平折り型ごみ袋を製造することとしたため、12月中には取扱店での納入遅延が解消されます。ごみ袋の納入遅延等の公表により買占め等の問題が生じ、新たな納入遅延が起こる可能性を避けるため、12月の公表となりました。

■その他の質問項目

- ・加西市北部エリアに見る地域課題の解決について
- ・文化・観光の振興と地域スポーツの未来について
- ・なり手不足問題について